

# ベネッセの教育における生成AI活用の現状と将来

## エグゼクティブサマリー

ベネッセの生成AI活用は、家庭学習向けの安全設計された“小さな実装”から始まり、学習支援・進路支援・学校向け業務支援・社会人リスクリングへと段階的に拡張してきました。実際の公開事例を見ると、起点は社内向けの安全なAIチャット基盤と、小学生親子向けの「自由研究お助けAI」であり、その後、進研ゼミ小中向け「チャレンジAI学習コーチ」、大学向けの「自己PRサポートAI」「キャリアチュートリアル」、高校向けの「新・進研ゼミ高校講座」、高等学校向け「グロースナビ」、そしてUdemy連携のAIアシスタント・AIロールプレイへと広がっています。 <sup>1</sup>

その特徴は、単に答えを自動生成するのではなく、既存の教材・学習データ・指導ノウハウと組み合わせ、学習者の思考を促す“伴走型”に寄せている点です。小学生向け「自由研究お助けAI」は答えを一つに固定せずヒントを返す設計であり、小中向け「チャレンジAI学習コーチ」も答えの直示を避け、考え方や視点を広げる方針を明示しています。大学向け「キャリアチュートリアル」はさらに踏み込み、「答えを出さない」生成AIを前面に打ち出しています。 <sup>2</sup>

一方で、公開されている評価データは、学力向上の厳密な因果検証よりも、満足度・時間短縮・即時性・返却速度といった運用指標が中心です。たとえばStudyCastのAI質問では「解説が役に立った」とする回答が91.8%とされ、GPS-AcademicのAI自動採点では返却が従来の1~2か月から即日に短縮され、校務利用の事例では学校通信作成の負担軽減が報告されています。しかし、公開情報ベースでは、ランダム化比較試験のような強い学習効果実証はまだ限定的です。 <sup>3</sup>

したがって現時点の評価は、ベネッセは生成AIを“教育的に無害化して導入する”段階をかなり前進させているが、今後は説明責任、ログ管理の透明性、学習効果の外部検証、著作権・評価の扱いの精緻化が競争力の分岐点になる、というものです。文部科学省も、人間中心の原則、情報活用能力の育成、個人情報・著作権への配慮を重視しており、学校現場でも一律禁止・一律義務化ではなく、柔軟な実装と人の最終判断を求めています。 <sup>4</sup>

## 全体像と分析フレーム

本レポートは、ベネッセの公式サイト・ニュースリリース・製品ページ・FAQ・グループ会社の公開情報を主軸に、文部科学省・経済産業省・自治体実践資料・関連する公式事例ページを優先して整理したものです。公開情報で確認できない項目は「未指定」と明記しました。なお、ミライシードやClassiのように、サービス全体ではAI機能が豊富でも、公開確認できた範囲での“生成AI”機能は限定的なケースがあり、その場合は通常のAI・アダプティブラーニング機能と区別して記述しています。 <sup>5</sup>

ベネッセの生成AI戦略を読む上で、外部環境も重要です。ベネッセ教育総合研究所の2026年公表分析では、学校外学習での生成AI利用率は小学4~6年生で約10%、中学生で約30%、高校生で約60%に達しており、学齢が上がるほど利用が拡大しています。ベネッセがK-12領域で生成AIを“避ける”のではなく“教育的に飼いながら”方向へ舵を切った背景には、この利用実態があるとみてよいです。 <sup>6</sup>

同時に、学校現場全体では導入がまだ過渡期です。文部科学省の校務DX自己点検結果では、2026年11月時点で、校務で生成AIを「全く活用していない」学校が58.9%を占める一方、教職員の半数以上が活用した学校の97%が働き方改善に効果を実感していました。つまり、生成AIは効果が見え始めているものの、普及その

ものはまだ半ばであり、ベネッセの学校向け展開もこの“未成熟だが伸びる市場”に乗っていると整理できません。<sup>7</sup>

さらに文部科学省のガイドラインVer.2.0は、生成AI活用を**人間中心の原則、情報活用能力の育成強化、個人情報・著作権への配慮**の上で進めるべきだと示しています。ベネッセのK-12向けサービスが、保護者同意、質問回数制限、ヒント型応答、目的外利用の抑止を比較的強く打ち出しているのは、この公的原則と整合的です。<sup>8</sup>

## 初等教育

初等教育でのベネッセの生成AI活用は、「**直接答えを出す**」のではなく、**親子で安心して使うこと、問いを広げること、子どもに考えさせること**に最も力点があります。これは、教育効果だけでなく、保護者の不安に先回りする設計でもあります。小学生親子向けの「自由研究お助けAI」は、保護者認証、再学習不使用、目的外利用の抑止、質問回数と文字数の制限、情報リテラシー動画の提供まで含めて設計されており、2024年以降の「チャレンジAI学習コーチ」に継承されるベネッセ流ガバナンスの“原型”とみなせます。<sup>9</sup>

サービス	現状・具体事例	対象 学年	利用 形態	安全対策	教育設計	評価・実証データ	根拠
自由研究お助けAI	2023年夏に小学生・保護者向けに無償提供。自由研究テーマのアイデアや観点提示を行う	小学生・保護者	家庭	保護者メール認証、入力内容の再学習不使用、目的外利用への警告、1日の質問回数制限、回答文字数制限、事前リテラシー動画	<b>問いかけ型・ヒント型</b> 。答えを一つに固定しない	利用効果の厳密数値は未指定。ただし保護者肯定は約6割、懸念は思考力低下が中心	<sup>10</sup>
進研ゼミ小学講座チャレンジAI学習コーチ / AI質問チャット	2024年3月から小4~6会員向けに提供。2026年度FAQでは小4~6が「AI質問チャット」を利用可能	小4~6	家庭	生成AI機能は保護者同意が必要。同意後も停止可能。利用回数制限あり。ログ保持期間は公開ページ上では <b>未指定</b>	<b>伴走型</b> 。答えの直示ではなく、考え方・視点を広げる設計	子どもの声として「すぐ疑問解消」「ほめられてやる気が出る」が紹介。2024年に日本e-Learning大賞「生成AI特別部門賞」受賞	<sup>11</sup>

サービス	現状・具体事例	対象学年	利用形態	安全対策	教育設計	評価・実証データ	根拠
ミライシード	小中学校約12,000校導入の基盤。AIドリルは公開確認できるが、 <b>ベネッセ公表上の小学校向け生成AI中核機能は未指定</b> 。一方で、学校・自治体が外部生成AIと組み合わせて使う実践支援は活発	小学校～中学校	学校・教員	生成AI固有の安全機構はサービスページ上で未指定	ミライシード自体は主に学習支援・協働学習基盤。生成AIは <b>外部ツール連携型</b> が中心	導入規模は大きい。学習効果の公開評価はケース報告中心	12

ここで重要なのは、初等教育では「生成AIそのものを教える」より、「生成AIにどう向き合うかを親子で学ぶ」設計が先行している点です。ベネッセは、子ども単独の自由利用よりも、最初は親の確認や同席を入れた“管理された経験”をつくり、その上で問いの立て方や情報リテラシーに接続しています。この順序は、文科省が求める発達段階を踏まえた利活用方針とも親和的です。 13

## 中等教育と高等学校

中等教育では、ベネッセの生成AI活用は「**疑問の即時解消**」と「**個別最適化された自走支援**」へ比重が移ります。特に中学以降は、学習内容が抽象化し、つまずきが放置されやすくなるため、チャットや画像認識ベースで“今その場で”わからなさを処理できることが価値になります。ベネッセの公開情報でも、小中向け「AI学習コーチ」から、高校向け「AI質問しまじろう」、StudyCastのAI質問、学校現場での生成AI連携事例まで、一貫してこの方向が見て取れます。 14

サービス	現状・具体事例	対象学年	利用形態	安全対策	教育設計	評価・導入事例	根拠
進研ゼミ中 学講座 チャ レンジ AI学 習コーチ / 7 分チャレン ジ AI質問	5教科の学習内容と勉強法をチャットで質問でき、画像で問題を撮るとAIが解説	中1～中3	家庭	保護者同意が必要。保護者サイトから同意確認・変更可能	<b>ステップ解説型</b> 。答えそのものはなく、解答に至る過程を説明	AIで解決できない場合は教科アドバイザー連携。2026年にはAI赤ペン添削も一部単元で提供され、判定誤りの可能性も明示	15

サービス	現状・具体事例	対象学年	利用形態	安全対策	教育設計	評価・導入事例	根拠
StudyCast AI質問	無料学習アプリ。2025年8月にAI質問を開始、2026年1月に7教科対応化。問題撮影で24時間解説	中高生	家庭	公開ページ上で生成AI固有の詳細安全策は <b>未指定</b> 。個人情報ポリシー導線はあり	<b>解説提示型</b> 。つまりきを即解消する設計	2026年4月に200万DL突破。AI質問の解説が役に立ったと答えたユーザーは91.8%	16
ミライシード×外部生成AI実践	東京都練馬区立大泉中学校では、英語授業でWorldClassroom、スタディポケット、Canva AI等とミライシードを組み合わせ、英作文改善・発音練習・共同編集を実施	中学校全学年のうち実践は主に中1英語	学校・教員・生徒	学校側運用。ベネッセ単体の安全機構ではなく授業設計側で担保	<b>個別最適+協働学習型</b> 。AIは対話・添削・可視化支援	英単語テスト平均点上昇、発話量向上、外部コンテスト入賞などが報告。公表数値の厳密詳細は未指定	17
新・進研ゼミ高校講座	2026年3月開始。AI質問「しまじろう」、AIテスト、AI問題演習を中核にしたデジタル学習へ刷新	高1～高3	家庭	未成年申込は保護者前提。AI質問は回数上限の具体値を非公表。保護者学習確認機能は現時点で未用意。ログ保持期間は未指定	<b>解説提示型+計画伴走型</b> 。ヒント提示やビジュアル解説、学習計画生成を重視	7教科24科目、24時間質問可。公開情報では満足・利用感の提示はあるが、学力効果の厳密数値は未指定	18

サービス	現状・具体事例	対象学年	利用形態	安全対策	教育設計	評価・導入事例	根拠
グロースナビ	2026年4月から高等学校向け提供。探究相談チャット、志望理由壁打ちルーム、ポートフォリオ、要録自動生成を搭載	高校	学校・教員・生徒	公開情報では生成AI個別機能のログ管理詳細は <b>未指定</b> 。先生側で要録生成などの利用を想定	<b>探究・進路・教科学習の統合伴走型</b> 。進路や探究では壁打ち、教員側では記述自動生成	要録自動生成は2026年度中実装予定。学校外販向けオールインワンPFとしてベネッセの方向性を示す	19
Classi	2026年4月にベネッセへ吸収合併。公開確認できた生成AIの生徒向け主力機能は <b>未指定</b> だが、社内では英文法問題制作や数学IIIコンテンツ制作に生成AIを使用	高校・中高一貫・専門学校	学校・教員・社内制作	合併後も既存サービス内容変更なし。生成AI運用の公的安全仕様は未指定	<b>公開面では未指定、内部では下書き生成+専門家品質管理型</b>	英文法問題制作、数IIIの原稿執筆・図版作成をAIに代替させ、専門家が品質管理する方式を公開	20

この領域で見えてくるのは、**ベネッセが“家庭学習の即時質問”と“学校現場のデータ統合”を、別々のサービスから徐々に接続しようとしている**ことです。高校講座のAI質問・AIテスパ、StudyCastのAI質問、グロースナビの探究相談チャットと要録自動生成、Classiの教材制作AIはばらばらのように見えますが、実際には「質問」「計画」「記録」「評価」「指導文生成」を一気通貫でつなぐ方向へ寄っています。これは公開情報から導ける合理的な推論です。 21

## 高等教育と就職支援

高等教育領域では、ベネッセの生成AI活用は**“学習の疑問解消”から“キャリアの言語化支援”へ軸足が移る**のが特徴です。高校以前では教科学習のつまずき対処が中心でしたが、大学では自己理解、業界理解、自己PR、汎用的能力の可視化、面談前の自己整理といった**“答えのない問い”**が主戦場になります。このため、ベネッセiキャリアでは、むしろ**“答えを出さない”**こと自体を価値にした設計が現れています。 22

サービス	現状・具体事例	対象	利用形態	安全対策	教育設計	評価・導入事例	根拠
キャリアチュートリアル	キャリア教育専用の生成AIアプリ。自己分析、業界・企業・職種研究、自己PR改善を2コマ授業で実施	大学生	大学授業・キャリアセンター・教員	公開ページ上のAIログ管理詳細は未指定。ベネッセiキャリア自体はプライバシーマーク取得	<b>問いかげ型・答えを出さない型。</b> 学生の思考を必要とするよう設計	「教職員1名でも個別最適化したキャリア授業を実現可能」とし、モニター授業参加学生の好意的感想を公開	23
自己PRサポートAI	GPS-Academic結果と、学生が入力した「頑張ってきたこと」「働きたい業界」を組み合わせ、強み・エピソード・業界活用のヒントを提案	大学生	大学・キャリアセンター	GPS結果と自己入力を利用。具体的なAIログポリシーは公開情報では未指定	<b>ヒント生成型。</b> 完成文の代筆ではなく自己PRの素材・方向性を出す設計	2024年3月提供開始。大学職員側は面談前に自己分析が進んだ状態で学生を支援しやすいと説明	24
GPS-Academic AI自動採点	記述・論述式テストにAI自動採点を導入し、2026年度版から即日返却	大学生・大学	大学・IR・学生指導	ループリック準拠評価。品質維持をうたうが、モデル検証の詳細指標は公開範囲では未指定	<b>評価自動化型。</b> 学習後の振り返りを高速化	215大学28万人で活用。返却は従来1~2か月から即日へ短縮	25
doda系就職支援周辺	ベネッセiキャリアは就活とAIの関係を継続的に調査。2026年調査では就活でAI利用経験が約半数、利用者の約3割が「自分がわからなくなった」と回答	大学生・就活生	就活支援・キャリア面談	調査・支援サービスとしての運用。生成AIそのものの安全策ではなく、 <b>過度依存のリスク認識</b> を提供	<b>AI活用のメタ認知支援型。</b> AI使用を前提に人の支援価値を再定義	就活支援におけるAI過依存・自己理解の希薄化を可視化した点で、ベネッセiキャリアの設計思想に示唆	26

この領域での示唆は明確です。ベネッセキャリアは、生成AIを“答え合わせ機械”ではなく、“自分の考えを言語化する壁打ち相手”として使う方向に振っています。これは、就活AI利用者の一部が自己理解を失うという自社調査の結果とも整合的で、キャリア教育においてはK-12以上に「問いの質量」と「人の伴走」が重要だという認識がうかがえます。 27

## 社会人リスキリングとベネッセ内部業務

社会人リスキリングでは、ベネッセはUdemyと連携し、AIを学ぶだけでなく、AIを使って学ぶ方向へ進んでいます。日本国内ではUdemyのAIアシスタントとAIスキルマッピングが2025年4月から利用可能になり、2025年9月にはAIロールプレイが発表されました。このロールプレイは、学習内容をAIとの模擬対話ですぐ実践に移すもので、知識習得からアウトプットへの橋渡しを狙っています。 28

領域	現状・具体事例	対象	利用形態	安全対策	学習・業務設計	評価・事例	根拠
Udemy AIアシスタント / AIスキルマッピング / AIロールプレイ	日本語対応AIアシスタントとスキルマッピングは2025年4月から国内提供。AIロールプレイは2025年9月に発表	社会人・企業	法人研修・個人学習	Benesse側公開資料では詳細ログ管理は未指定。機能提供主体はUdemy	<b>実践転移型</b> 。学習中質問、スキル可視化、模擬対話でアウトプット強化	ベネッセは、内製講座へのAIロールプレイ実装支援にも取り組むと公表	28
生成AI活用研修 / 生成AI×資料作成研修	生成AIをリアル業務にどう埋め込むかを学ぶ研修を提供	社会人	法人研修	研修サービスとして提供。ツール固有のデータ保持仕様は研修ページ上では未指定	<b>業務再設計型</b> 。AIに何を任せるかを自業務分解から考える	生成AI導入を“ツール研修”で終わらせず、業務設計まで扱う点が特徴	29
Udemy Business導入企業事例	伯東では全社員にUdemy Businessと生成AIアカウントを付与し、98%が生成AIを活用。日清食品HDでは管理職と自律学習者の両輪で文化醸成を推進	社会人・企業	企業内学習基盤	企業ごと運用	<b>学習文化醸成型</b>	利用率・文化醸成の事例は豊富だが、学習成果測定は事例報告中心	30
Benesse Chat	2023年4月にグループ社員約1.5万人向けに導入。Azure OpenAIベースの社内AIチャット	ベネッセ社員	社内業務	入力情報の二次利用をせず、クローズド環境で外部漏えいしない仕様と公表	<b>業務効率化+新商品検証型</b>	以後の教育サービスや業務改革の実験基盤として機能	31

領域	現状・具体事例	対象	利用形態	安全対策	学習・業務設計	評価・事例	根拠
教材制作・ 教員支援	Classiでは英文法問題や数学IIIコンテンツ制作に生成AIを活用し、専門家が品質管理。ベネッセとEDUCOMは、METI事業でテスト問題たたき台作成・採点の実証に参画。MEXT AIパイロット校では学校通信作成支援など校務利用事例も公表	社内制作・ 教員	社内・ 学校	教員による ファクト チェック、 人による最終確認を前提	<b>下書き生成+人間レビュー型</b>	テスト作成の時間短縮、学校通信作成の負担軽減などが報告。学校通信では“同じ文章になりやすい”課題も明示	32

この領域は、ベネッセの生成AI活用の“裏側”を最もよく示しています。つまり同社は、**まず社内で安全なAIチャットを全社導入し、制作・業務・営業支援・評価業務で使いながらノウハウを蓄積し、それを教育サービスへ外部化している**と読めます。実際、Benesse Chat、Web制作運用改革、Classiの教材制作、テスト作成実証には、いずれも「AIが叩き台を作り、人が確認する」という共通パターンがあります。これはベネッセの設計思想としてかなり一貫しています。 33

## 利点とリスク、そして将来展望

ベネッセの生成AI活用の利点とリスクは、次のように整理できます。

観点	利点	リスク	主な示唆	根拠
即時性	24時間・即時解説でつまづきを放置しにくい	即時に頼りすぎると試行錯誤を短絡化しやすい	“即答”より“考えさせる即時支援”が重要	34
個別最適化	学習履歴・進路関心・評価結果に応じた支援を組みやすい	推薦や生成がブラックボックス化しやすい	個別最適化の根拠説明を教師・学習者に返す設計が必要	35
教員負担削減	学校通信、テスト素案、要録生成、教材制作で時間短縮が見込める	文章の画一化、事実誤認、ローカル文脈の欠落が起こる	“生成→レビュー→修正”のワークフローを制度化すべき	36
評価の高速化	記述採点・返却が早くなり、振り返りが学習に接続しやすい	AI判定の誤差や評価の妥当性への懸念が残る	形成的評価から先に導入し、重要判断では人手併用が安全	37
AIリテラシー育成	子どもが早期からAIとの付き合い方を学べる	誤情報・著作権・個人情報の扱いを誤る可能性	リテラシー教育を機能利用前に組み込むのが有効	13
学校全体への浸透	使いこなせば働き方改善効果は大きい	現場では未活用校が多く、時間不足・環境未整備・不安が障壁	ツール導入だけでなく研修と支援体制が必要	38



次に優先すべきは、**文部科学省・経済産業省・自治体/学校の実践報告**です。文科省の生成AIガイドライン Ver.2.0、校務DX自己点検、AIパイロット校事例、経産省「未来の教室」の採択・実証結果は、ベネッセの施策を“教育制度の中でどう位置づけるか”を理解するために不可欠です。 46

第三に、**ベネッセ教育総合研究所やベネッセ i-キャリアの調査・分析**が有効です。子どもの学習における生成AI使用率の伸びや、就活におけるAI活用の副作用は、サービス機能そのものではなく、利用行動と教育設計の課題を理解するための重要な補助線になります。 47

総じて、ベネッセの生成AI活用は、**日本の教育事業会社としてはかなり広い範囲を押さえており、しかも“安全な小規模導入→学習支援→評価・進路・校務統合”という順序に一貫性がある**と言えます。いま必要なのは、導入の是非を抽象的に論じるのではなく、どの教育段階で、何をAIに任せ、どこに人の判断を残すかを実務で詰めることです。ベネッセの公開事例は、その具体的な設計論を読む素材として、かなり有用です。

48

---

1 31 33 41 社内 AI チャット「Benesse GPT」をグループ社員 1.5 万人に ...

[https://company.benesse.co.jp/newsrelease/20230414release.pdf?utm\\_source=chatgpt.com](https://company.benesse.co.jp/newsrelease/20230414release.pdf?utm_source=chatgpt.com)

2 9 10 13 40 44 45 48 ベネッセ、小学生親子向け生成AI サービスを7/25 から無償提供 | ニュースリリース | 株式会社ベネッセコーポレーション

[https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2023/07/13\\_5992.html](https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2023/07/13_5992.html)

3 【公式】進研ゼミ高校講座 | デジタルで学ぶ高校生向け通信教育

<https://kou.benesse.co.jp/>

4 8 42 46 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/mext\\_02412.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/mext\\_02412.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/mext_02412.html)

5 12 <https://bso.benesse.ne.jp/miraisseed/index.html>

<https://bso.benesse.ne.jp/miraisseed/index.html>

6 47 [https://view-next.benesse.jp/view\\_section\\_web/bkn-board/article36694/](https://view-next.benesse.jp/view_section_web/bkn-board/article36694/)

[https://view-next.benesse.jp/view\\_section\\_web/bkn-board/article36694/](https://view-next.benesse.jp/view_section_web/bkn-board/article36694/)

7 38 [https://www.mext.go.jp/content/20260224-mxt\\_shuukyo01-000047339\\_012.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260224-mxt_shuukyo01-000047339_012.pdf)

[https://www.mext.go.jp/content/20260224-mxt\\_shuukyo01-000047339\\_012.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260224-mxt_shuukyo01-000047339_012.pdf)

11 14 34 「進研ゼミ」が生成AI活用の新サービス「チャレンジ AI学習コーチ」を3月下旬から提供開始。教科の疑問を、いつでも納得いくまで質問可能に 「進研ゼミ」受講経験者 向井理さん出演 "勉強) 新次元"新TVCMも2月2日より放映開始 | ニュースリリース | 株式会社ベネッセコーポレーション

[https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2024/02/02\\_6043.html](https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2024/02/02_6043.html)

15 【7分チャレンジ】「AI質問」はどういったサービスですか? | よくある質問・手続き | 進研ゼミ 中学講座 | 保護者サポート

[https://faq.benesse.co.jp/faq/show/92505?category\\_id=8552&site\\_domain=chu](https://faq.benesse.co.jp/faq/show/92505?category_id=8552&site_domain=chu)

16 StudyCast (スタキャス) - 自習するすべての人へ。やる気が続く学習サイクルを

<https://www.benesse.co.jp/zemi/studycast/>

17 東京都練馬区立大泉中学校 | 導入事例 | ミライシード | Benesse

[https://bso.benesse.ne.jp/miraisseed/case/1191487\\_1538.html](https://bso.benesse.ne.jp/miraisseed/case/1191487_1538.html)

18 21 [https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2026/03/24\\_6267.html](https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2026/03/24_6267.html)

[https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2026/03/24\\_6267.html](https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2026/03/24_6267.html)

19 35 39 [https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2025/10/31\\_6179.html](https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2025/10/31_6179.html)

[https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2025/10/31\\_6179.html](https://company.benesse.co.jp/newsrelease/education/2025/10/31_6179.html)

20 <https://support.classi.jp/hc/ja/articles/15640996221967->

[Classi%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BE-](https://support.classi.jp/hc/ja/articles/15640996221967-)

[%E5%90%B8%E5%8F%8E%E5%90%88%E4%BD%B5%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B](https://support.classi.jp/hc/ja/articles/15640996221967-)

<https://support.classi.jp/hc/ja/articles/15640996221967->

[Classi%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BE-](https://support.classi.jp/hc/ja/articles/15640996221967-)

[%E5%90%B8%E5%8F%8E%E5%90%88%E4%BD%B5%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B](https://support.classi.jp/hc/ja/articles/15640996221967-)

22 23 27 43 <https://contents.benesse-i-career.co.jp/careertutorial>

<https://contents.benesse-i-career.co.jp/careertutorial>

24 <https://prtimes.jp/a/?c=120&f=d120-1235-f7fcc4414b0cc7a73cd44197e1cec673.pdf&r=1235>

<https://prtimes.jp/a/?c=120&f=d120-1235-f7fcc4414b0cc7a73cd44197e1cec673.pdf&r=1235>

25 37 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001420.000000120.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001420.000000120.html>

26 <https://doda-student.jp/column/ai-shukatsu-survey/>

<https://doda-student.jp/column/ai-shukatsu-survey/>

28 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000100811.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000100811.html>

29 <https://www.benesse.co.jp/udemy/business/boc/7830>

<https://www.benesse.co.jp/udemy/business/boc/7830>

30 <https://www.benesse.co.jp/udemy/business/case/hakuto.html>

<https://www.benesse.co.jp/udemy/business/case/hakuto.html>

32 <https://tech.classi.jp/?page=1766106000>

<https://tech.classi.jp/?page=1766106000>

36 [https://leadingdxschool.mext.go.jp/files/achieve\\_r6/ai/B108222000310\\_A1.pdf](https://leadingdxschool.mext.go.jp/files/achieve_r6/ai/B108222000310_A1.pdf)

[https://leadingdxschool.mext.go.jp/files/achieve\\_r6/ai/B108222000310\\_A1.pdf](https://leadingdxschool.mext.go.jp/files/achieve_r6/ai/B108222000310_A1.pdf)